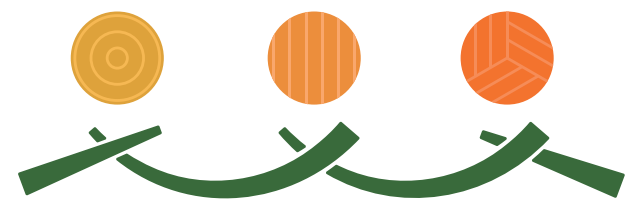




種別名称 幼保連携型認定こども園 たちばなこども園
 対象年齢 0歳児(生後4か月)～5歳児(小学校就学前)
 開園時間 7:30～19:00(土曜は16:00まで)
 定員 92名(幼稚部29名、保育部63名)
 連絡先 電話:0465-20-8850
 FAX:0465-20-8786

- | | | |
|---|---|-----------------|
| 1 | 2 | 1. こたち広場 |
| 3 | 4 | 2. いちよのへや (4歳児) |
| | | 3. たちばなわくわくホール |
| | | 4. のぞみ台 |



幼保連携型認定こども園

小田原市立 たちばなこども園



建築概要
 事業主 小田原市
 C M 日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社
 設計施工 環境デザイン・瀬戸建設・加藤建設・鈎持技建共同事業体
 (設計監理) 株式会社環境デザイン研究所
 tel 03-5575-7171 fax 03-5562-9928
 http://www.ms-edi.co.jp
 (施工) 瀬戸建設株式会社 tel 0465-34-7711
 加藤建設株式会社 tel 0465-24-6699
 株式会社鈎持技建 tel 0465-36-4511

所在地 神奈川県小田原市小船174-1
 アクセス 二宮IC・橋ICより車で5分 / 二宮駅よりバスで15分



敷地面積 2,148.85㎡
 建築面積 754.79㎡
 延床面積 980.95㎡
 構造規模 木造(一部耐火木造) 地上2階
 設計期間 基本設計 2024年3月～2024年8月
 実施設計 2024年9月～2025年2月
 施工期間 2025年3月～2026年1月

「運動」「あそび」「学び」「交流」を通して、すべてのこどもたちの「意欲」を喚起するたちばなこども園

3.4.5歳児室

各部屋ひとつずつロフトにアクセスできる塔状遊具のある特徴的な保育室です。それぞれ「まる」「さんかく」「しかく」と形が異なります。屋根は小さな木材でも大きな空間を造ることができる「梁を互いに組むレシプロカル架構」を採用しました。



こたち広場

0.1.2歳児室の中央には保育室と連続して広い空間で遊べるこたち広場があります。吹抜け空間で大きな窓から光が差し込み明るく開放的な広場です。

0.1.2歳児室

南向きの明るい保育室です。各保育室には小さな量コーナーがあり、囲まれた空間でこもって遊べます。また3つのプレイハウスのある専用のすくすく園庭とつながります。

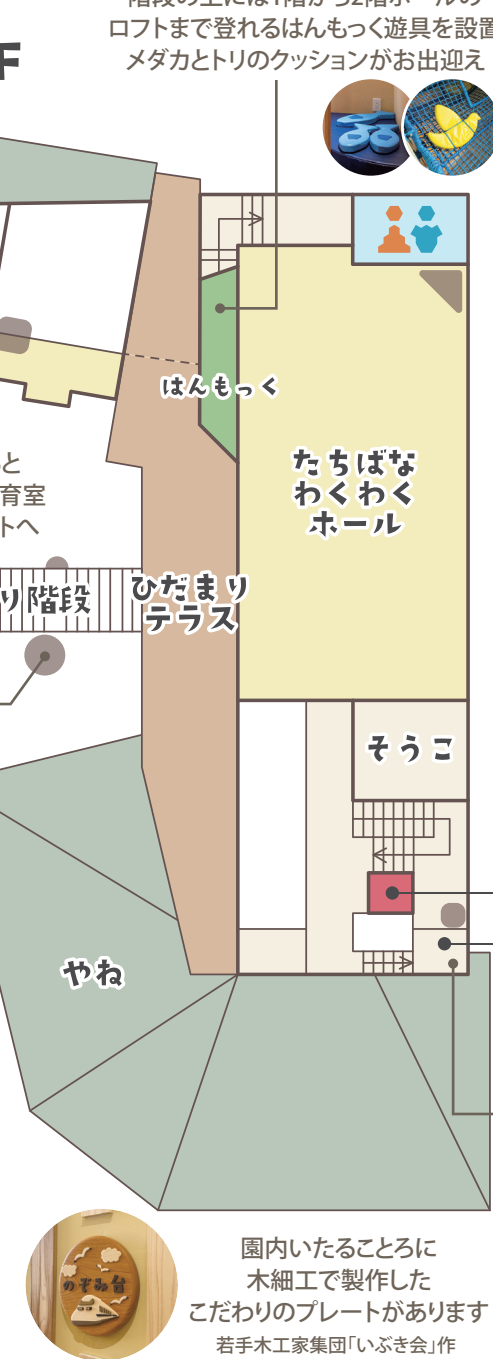
たちばなこども園 空間に込めた環境建築家としての想い

環境建築家 仙田 満

私は長年、こどもの成育環境に関する研究を続けており、こどもたちの意欲—あそび意欲、運動意欲、学習意欲、交流意欲—を喚起する空間構造を「遊環構造」と名付け、この遊環構造理論を基本としてこども達が元気になる空間をデザインしてまいりました。

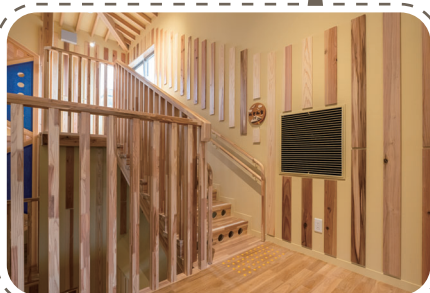
遊環構造のモデル図と7つの条件

- ① 循環機能があること
- ② その循環(道)が安全で変化に富んでいること
- ③ その中にシンボル性の高い空間、場があること
- ④ その循環にめまいを体験できる部分があること
- ⑤ 近道(ショートサーキット)ができること
- ⑥ 循環に広場、小さな広場などが取り付いていること
- ⑦ 全体がボラスな空間で構成されていること



たちばなわくわくホール

特徴的な架構のホールで雨の日でものびのび活動できます。段状遊具ははんもっく遊具や1階のはんもっくライブラリにつながります。



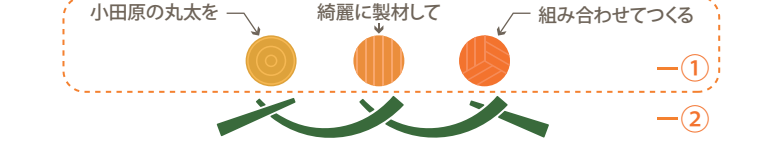
小田原産木材をふんだんに活用した園舎づくり

柱・梁・土台などの主要な構造材には小田原産材を100%、外壁や内壁の仕上げ板材にも小田原産材を100%使用しています。小田原産材をこの規模の建築物の構造材に使用するの公共として初めてであり、伐採から貯木場、製材の流れ等を確立し、今後の小田原産材活用の促進につながる取り組みを行っています。また、その木材をより近くで感じられるよう、耐火木造を職員室、ホール部分にとどめ、両脇の保育室を別棟扱いとすることで、梁や柱などの木架構がそのまま見せられる設計としました。



たちばなこども園の特徴を表すロゴマーク

小田原産材を使用した園舎づくりの流れを小田原・箱根で盛んな寄せ木細工の模様と園名にちなんで「たちばな」の3つの実で表現しています。(1) 下部は互いに支え合う木架構の様子と相模湾の波(2)を表し、ロゴ全体で3人の園児が互いに肩を組み合い成長する思いが込められています。



環境に配慮した省エネルギー設計

本こども園は環境に配慮した省エネ設計となっています。建物で消費するエネルギーの収支を低減させるため、高断熱化、Low-Eガラスや高効率設備機器の採用、太陽光パネルの設置を行い、ZEB Ready(基準より50%以上必要エネルギーを削減)を達成しました。

既存の桜はそのまま継承

旧下中幼稚園の正門にあったソメイヨシノはそのまま残し、新たなたちばなこども園でもメインエントランスを彩ります。

